

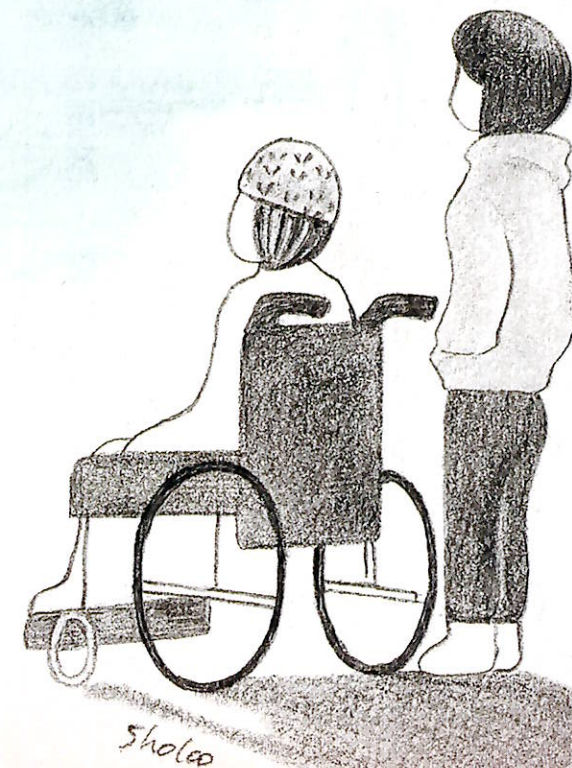
区民と創る台東区の男女平等参画のための情報誌

はばたき21

通信

2022・3

No.43



ヤングケアラーが
自分らしく生きられる
社会のために

●特集

ヤングケアラーが
自分らしく生きられる社会のために

寄稿「介護で孤立する子ども達 その現状と支援」

西南学院大学教授 安部 計彦 さん

●男女平等推進プラザ開設20周年 PART2

区民と共にあゆむ「はばたき21」

- ◆どうする？ 家庭での性教育
- ◆「はばたき21」講座レポート
- ◆たいとうのキラッとさん紹介
- ◆「はばたき21」情報コーナーおすすめ図書案内

イラスト よこたしょうこさん

特集 ヤングケアラーが自分らしく生きられる社会のために

「ヤングケアラー」と呼ばれる、本来、大人が行うような家族の世話や介護を担っている子ども達をご存知ですか。

ヤングケアラーの子どもは自身の状況を当たり前だと思っているなどの理由から、過度な負担で自らの生活や学業等に影響が及んでいても、誰にも悩みを相談できずにいる人が少なくありません。

孤立しがちな子ども達が声を上げやすくなるような環境を作り、個々の思いに寄り添った適切な支援が進められるためにも、社会全体でヤングケアラーに対する理解を深めることが重要です。

そこで今回は、西南学院大学教授の安部計彦さんに、ヤングケアラーの現状や支援と対応について寄稿していただきました。

介護で孤立する子ども達

その現状と支援

— 西南学院大学教授 —

安部計彦さん



安部計彦さんプロフィール

西南学院大学人間科学部社会福祉学科教授。日本社会事業大学大学院修了(博士 社会福祉学)。北九州市児童相談所、北九州市立障害福祉センターを経て現職。厚生労働省の子ども・子育て支援推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)の検討委員会委員。著書は『ネグレクトされた子どもへの支援』共編(明石書店 2016)など。

ヤングケアラーとは

最近、ヤングケアラーが注目されています。以前から保育所の送迎をきょうだいがしていたり、高齢者や障がい者のヘルパーさんが家を訪ねたときに平日の昼間に学齢期の子どもが世話をしている事を目にするものがあつたのですが、ヤングケアラーという概念が出てきて、その実態と課題が社会問題になってきました。

ヤングケアラーとは、「大人が行うような家族の世話(ケア)」を日常的に行っている18歳未満の子ども(ヤング)のことを言います。例えば、障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている、家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている

る、目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている、日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしているなど、様々な様子があります。これは単に「お手伝い」程度ではなく「日常的に」行われていることが問題です。

調査から浮かび上がった実態

昨年行われた三菱UFJリサーチ&コンサルティングの調査では、全国の中学2年生の5・7%、全日制高校2年生の4・1%が「家族の中にあなたが世話をしている人はい」と答えています。少ないようですが、中学2年生で17・5人に1人、全日制高校2年生では24・4人に1人になり、各クラスに1人はい

る計算になります。

家族構成ですが、ひとり親世帯23・2%、祖父母と同居している三世帯世帯は16・7%とヤングケアラーでない子どもより割合は多いのですが、両親と子どもの二世帯世帯も52・6%あり、世帯構成ではどの世帯でもあります。

ケアの対象ですが、中学2年生の複数回答で、きょうだいが61・8%で一番多く、祖父母が14・7%ですが、父親や母親の世話をしている子どもも23・5%おり、どの世帯でもありえます。

ヤングケアラーがケアに従事する程度ですが、ほぼ毎日が中学2年生で45・1%、全日制高校2年生で47・6%おり、週3〜5日が中学2年生で17・9%、全日制高校2年生で16・9%と、かなり高い頻度で

した。また1日当たりの従事時間は、7時間以上が中学2年生で11・6%、全日制高校2年生で10・7%と1割以上おり、3〜7時間未満が中学2年生で21・9%、全日制高校2年生で24・4%と、3割以上のヤングケアラーが3時間以上、家族のケアに従事していました。

学校生活への影響については、日本ケアラー連盟が神奈川県藤沢市で学校教員を対象に調査をした結果では、欠席が多い(56・3%)、低学力(41・7%)、遅刻が多い(39・6%)、宿題をしてこない(27・8%)、忘れ物が多い(26・4%)など、様々な影響が出ています。

また家庭生活への影響では、中学2年生で自分の時間が取れない(20・1%)、勉強する時間がない(16・0%)、友達と遊べない(8・5%)などがありますが、58・0%のヤングケアラーは「特になし」と答えています。そして身体的にきつい(6・6%)より精神的にきつい(15・0%)や時間がない(16・0%)と訴えています。60・5%は「きつさは特になし」と回答しています。

さらにケアをしている子ども達に「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に

行っていることにより、子ども自身が行いたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」とヤングケアラーを定義して、自分が当てはまるかを聞いたところ、同じく中学2年生で「当てはまる」は1・8%、「当てはまらない」は85・0%、「わからない」は12・5%でした。家族のケアを担っていても、子ども達自身は自分をヤングケアラーとは認識していない実態が明らかになりました。

求められる対応と支援

(1) 発見

ヤングケアラーへの支援は発見から始まります。学校では遅刻や宿題をして来ない子どもの中に、家族の世話のために自宅で宿題ができなかったり、保護者の病院受診への付き添いで学校に行けない子ども(ヤングケアラー)かもしれません。保育所の送迎をきょうだいが行ったり、高齢者や障がい者のヘルパーが発見できる場合もあります。

「ヤングケアラーかもしれない」と気付いた方は、行政機関等の相談窓口までお知らせいただけることで、ヤングケアラーが発見されるかもしれません。

(2) 生活面への支援

ヤングケアラーが社会的な課題となっているのは、子どもがケアを担うことで家族の生活が成り立ち、子どもが抜け出せないシステムだからです。子どもは家族のために自分の遊ぶ時間や勉強ができない状態であり、これは子どもの権利が侵害された状態です。ヤングケアラーへの支援を考えると、「子どもへの権利侵害」という視点は欠かすことができません。

ただ、子どもが家族のケアをすることを禁止しても問題は解決しません。ヤングケアラーが家事等を担うことで家庭が維持できているため、子どもが担っていたケアを、誰が、どのように代替するかを考えないと、ヤングケアラー問題は解決しません。

(3) 心理面でのケア

ヤングケアラーの多くが、友達にケアの話をしません。それは「家族だから手伝うのは当たり前」と思っている場合もありますが、「話してもわかってもらえない」や「話して『大変ね』と言われたくない」など様々です。そのために孤立感を持っている場合も多いようです。

ヤングケアラーは家族のためにケ

困ったこと、話したいことがあったら...

ヤングケアラーに関するご相談も受け付けています。

お子さん・保護者の悩み相談、周りのお子さんで心配なことのご相談
子育て総合相談

◆日本堤子ども家庭支援センター ☎03-5824-2571

18歳までのお子さんと保護者の悩み相談

台東区立教育支援館 教育相談室

◆来所相談(予約) ☎03-5246-5855 ◆電話相談 ☎03-5246-5925

その他の相談窓口の紹介やヤングケアラーについての情報など

「子どもが子どもでいられる街に。」(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/young-carer/>

コロナに負けず活動を 続ける区民との3事業

●コミュニティ・カフェ●

昨年11月にカフェを再開。休止中は、掲示板「コミュニティ・カフェ広場」で、男女平等推進に関する話題等を発信し、参加して下さる方たちとのつながりが途切れてしまわないようにしました。

※感染予防の観点から、現在コーヒーの提供はしていません。



感染予防対策を徹底して開催

●男女平等推進フォーラム●

残念ながら来場者を迎えての開催はできませんでしたが、フォーラムの企画運営の一環として、「はばたき21」のあゆみに男女平等に関するトピックスを加えた年表「プラザ20年、あの時、この時」作りにも取り組みました。



▲ 年表には各委員のコメントも

●情報誌●

対面での打ち合わせが難しいときも、オンライン会議やメールでのやりとりによってテーマなどを出し合い、今号の原稿をまとめていきました。



入稿前の最終確認をする委員会の様子

男女平等推進団体との 協働による講座の開催

例年「はばたき21」との共催で実施している「区民学習活動支援事業」による4講座と、初の試みである、講座講師を団体をお願いした2講座を開催しました。

●「区民学習活動支援事業」は、男女平等参画をテーマにした区民向け講座やワークショップの企画を男女平等推進団体に応募していただき、選考会での審査を経て、共催で実施する事業です。今年度は、3団体による4講座が開催され、いずれも盛況のうちに終了しました。

☆ 主催団体 ☆

- ①2ワーキングマザーサロンたいとう
- ③NPO法人台東区の子育てを支え合うネットワーク
- ④はばたき21ドリームプロジェクト



●「はばたき21」主催の『パパと絵本であそぼう!』と『初心者のためのやさしいZoomの使い方講座』では、男女平等推進団体の「たいとう絵本の泉」と「ITボランティア虹の会」の方たちに、講座の講師をお願いしました。日頃の活動の成果を十分に発揮していただき、参加者にも大変好評でした。



▲『パパと絵本であそぼう!』



▼『初心者のためのやさしいZoomの使い方講座』

男女平等推進プラザ「はばたき21」男女平等推進団体 (34 団体)

- *IT ボランティア虹の会
- *NPO 法人 APL・パラカウンセリング研究所
- *新保育学会 親子の会
- *サークルやまとことば
- *新日本婦人の会台東支部
- *翠の会
- *水曜会
- *台東区男女平等条例をまなぶ会
- *NPO 法人 台東区の子育てを支え合うネットワーク
- *台東女性史あゆみの会
- *台東女性プラザを考える会
- *台東母親連絡会
- *フランス語勉強会
- *プレーパーク たいとうの会
- *みどりの会
- *たいとう絵本の泉
- *ことばの会
- *韓国文化研究会
- *アトリエ よこた
- *はばたき21 ドリームプロジェクト
- *アンサンブル・マーキュリー
- *パンの会
- *はばたきねっと
- *NPO 法人 Healthy Aging Projects for Women
- *モーニングクラス
- *おはなはらっぱ
- *勘亭流 書道の会
- *浅草日本語道場
- *台東区地域育ち合いコミュニティ『うれしぱんだ』
- *NPO 法人 GEWEL
- *さはやか
- *マジック同好会カッター
- *ワーキングマザーサロンたいとう
- *TEKONOWA

区民と共にあゆむ「はばたき21」

2021(令和3)年9月に開設20周年を迎えた台東区立男女平等推進プラザ「はばたき21」。これまで区民・男女平等推進団体と実施してきた様々な協働事業にも、新型コロナウイルス感染症の影響は及んでいます。そうした中、新しい形を模索しながら、今できる最善のことをめざして区民の皆様と事業に取り組む「はばたき21」の今を紹介します。

男女平等推進プラザ
開設
20周年
PART 2

「みんなのはばたき21 フォーラム」講演動画 配信とパネル展示

「男女平等推進フォーラム」は、講演会や男女平等推進団体の活動発表の場として、毎年多くの区民に参加していただいていたイベントです。今年度は、「みんなのはばたき21フォーラム」と名称を変更して開催する予定でしたが、再び中止に…。そこで、講演の動画配信と団体によるパネル展示を行いました。

講演レポート

プラザ開設20周年記念講演

「これがこみちの生きる道 柳亭こみちの落語&講演」

【講師】柳亭 こみち師匠



2021年9月25日(土)・26日(日)に予定されていた「みんなのはばたき21フォーラム」は中止になりましたが、当講演の動画配信のための撮影が、9月26日(日)、生涯学習センター2階のミレニアムホールで行われました。

フォーラム企画委員長・佐藤陽子さんのごあいさつに続いて登場した柳亭こみち師匠。客席に観客がいないのが残念でならないほど、その講演と落語は聴きごたえのある熱の入ったものでした。

講演のメインテーマは、圧倒的な男性優位の落語界(以前より増えたとはいえ女性落語家は1割にも満たない)で女性がいかに気働きをし、修業を重ねてきたか、です。

演劇好きな会社員だった頃、たまたま行った寄席で落語に魅了され、落語家になることを決意。そうして進んだ落語の道ですが、4年ほどに及ぶ見習い・前座の期間、ほぼ休みなしで、基礎化粧品も買えず(使えず)手にあかぎれをつくりながらも、師匠の世

話や寄席での仕事をしたそうです。前座の次の段階「二目」時代の約10年間は、男性の目線で磨き上げられてきた落語に女性(自分)ならではの演出を加える「戦い」の時期でした。今は、落語史上初の「二児の母で真打ちに昇進した落語家」としてさらに奮闘中。性を越えた「こみち落語」づくりをめざしています。

講演を受けての落語は「まんじゅうこわい」と「そば清」の2席。ご本人いわく、「まんじゅうこわい」は登場人物が男性だけのスタンダードなもの、「そば清」は主人公を女性にすえた工夫。通常は大食いそば男の造形が見ものですが、「こみちのそば清」では子だくさん落語家の夫をもつ清子(せいこ)さんが活躍します。

落語好きな身としては、新鮮な「こみち落語」を堪能しました。

※現在、講演のみ YouTube でご視聴いただけます。
https://youtu.be/sffdf_ewNtA



男女平等推進団体による パネル展示を実施

通常フォーラム時に行っているパネル展示を、2022年2月9日(水)～14日(月)に、生涯学習センター1階アトリウムにて開催。13団体に参加していただき、各団体の活動内容や成果物を紹介しました。

今の時代の性教育について考えさせられました…

インタビューや講演など、様々な立場の方からの知識、情報、アドバイスがあり、有意義な連載をお届けできたと思います。共通しているのは、それぞれの家庭で、子供の言動に合わせ、タイミングをとらえて教えることの大切さだと感じました。

60代の男性としては、我々世代までの「男らしさ」の負の面（男権意識、性的にも優位に立ちたい傾向など）の解消努力が必要だと身にしみました。

以前とは比べものにならない性情報の入手のしやすさ、デートDVの問題など、新たな課題も出ています。家庭での性教育の助けになるためにも、学校・教師、行政、周囲の大人による状況に沿った知恵やアドバイスは不断になければなりませんね。

『はばたき21通信 No.35、37、39、41』

○男女平等推進プラザ（生涯学習センター4階）にて配布しています。
○区のホームページにも掲載しています。



様々な学びの中で、これからの生活でも大切にしていきたいと思ったのが、櫻井裕子さんのお話で知った「同意」（体の自己決定すること）という言葉です。

自分自身の考えでいいこと。嫌なこととは嫌と言っていること。自分自身を大事にする。体の自己決定をするとき以外にも、自分と相手とは異なる考えを持っていることを念頭に置き、まずは聞いてみる。はつきりイエス、ノーが聞けたらいいのですが、本当の同意が聞けないときは、相手はノーなのだということを知っておくことがとても大切であると気付かされました。

連載を通じて、性教育は人権教育であると学びました。「性教育」のフレーズだけで構えてしまうことなく、タブー視されていたことがオープンに、また正しい知識を学べる機会を社会全体で作れたらと思います。まずは、家庭からできることはたくさんあると思うので、祖父母、親世代が知識を付けられる学びの場や機会を行政・学校・地域等と作り、子供たちに伝えられるように日々のコミュニケーションを大切にしていきたいと思います。

連載を終えて

Q どうする？ 家庭での性教育

「子供と一緒に学び、きちんと向き合うことの大切さ」

これまで、4回にわたりお届けしてきた「どうする？家庭での性教育」。毎回、編集委員が「多くの方に届いたら…」という願いを込めて臨んだ連載も、今回は最終回となります。

そこで、編集委員がこれまでを振り返り、この企画を始めたきっかけや連載を通じて学んだこと、気付いたこと、これからの性教育に望むことなど、様々な想いを綴りました。



これまでの『どうする？家庭での性教育』

1. 『はばたき 21 通信 No.35』 (2018 年 3 月)

助産師 嶋村克子さんインタビュー

「性教育をしなきゃ」と身構えず、子供のなぜに向き合う。わかりやすい言葉を見つけ、オリジナルのストーリーで伝えると、理解が深まる。

2. 『はばたき 21 通信 No.37』 (2019 年 3 月)

大正小学校 家庭教育学級取材レポート

講師：のじまなみさん（「パンツの教室協会」代表）
性について、日頃から子供が話しやすい環境を作っていく。子供の質問に対して、怒らない・ごまかさない・逃げ出さない。

3. 『はばたき 21 通信 No.39』 (2020 年 3 月)

「デートDV / 対等な関係」人権尊重教育研修会レポート

講師：櫻井裕子さん（助産師・思春期保健相談士）
「いやいやよはマジで嫌」が言えるようになることが大切。すぐにYESと言わないとき、相手は同意していないことを知っておく必要がある。

4. 『はばたき 21 通信 No.41』 (2021 年 3 月)

「本を通して考える、男の子と性的問題」

『これからの男の子たちへ「男らしさ」から自由になるためのレッスン』（太田啓子著 / 大月書店）
での「有害な男らしさ」と性暴力に関する記述から、男の子の育て方について考える。

以前から、「性教育」というと生殖ばかりが取り上げられ、卑猥な見方やタブー視されていることにずっと違和感を覚えていました。そうした中で、子供たちはなかなか生きた情報を得る機会が少なく、親世代はうまく子供たちに伝えられない状況にあるのではないかと感じていました。

子供には、自分の体を守るために、そして、間違った知識で相手を傷つけてしまったり、犯罪に巻き込まれない、巻き込まないためにも、性に関する正しい知識を知ってほしいという願いから、家庭での性教育というテーマを情報誌で取り上げたいと思いました。

性に関する正しい知識を

ママ友から、「兄妹で入浴中、兄が妹の下半身をのぞき込んでいることにびっくりし、『じろじろ見ない』としか言えなかった。男女の体のつくりの違いに気付いたけれど、どうしていいのかわからない」という相談を受けたことがあります。こうした悩みは、周囲でもいろいろ聞かれます。私自身、子供に性に関することを聞かれた際に構えてしまい、うまく伝えられないのではないかと不安があります。

実際、我が家でもラブリオンを見た子供に、「何やってるの？」と聞かれたことがあり、夫はいつかわかるという言葉で濁っていました。

学びを实践

「はばたき 21」 講座レポート



「はばたき21」では、男女平等参画社会の実現に向けた講座を実施しています。ここでは、今年度実施した2講座を紹介します。

『こんなところにジェンダーバイアス！？ —— 失敗から考える男らしさの呪縛』

■日時：2021年10月30日（土）午後2時～3時30分

■講師：清田 隆之さん（恋バナ収集ユニット「桃山商事」代表）

これまで1,200人以上の悩み相談に耳を傾け、恋愛とジェンダーをテーマに発信を続ける清田さん。身近な恋バナのエピソードから、その底にある様々なジェンダーに関する問題が見えてくるということで、「男性がやらかしがちな失敗」の背景や、「話し合いができない男たち」など、男性性に関する考察をお話しいただきました。

参加者との活発な質疑応答もあり、終了後には「ジェンダーという問題がいかに重要なテーマかということが伝わった」などの感想が寄せられました。

『あの！田房永子さんに聴く キレル私への処方箋』

■日時：2021年12月4日（土）午前10時～12時

■講師：田房 永子さん（漫画家・エッセイスト）

夫に対して理不尽にキレてしまう自身の姿や葛藤を描いた『キレル私をやめたい～夫をグーで殴る妻をやめるまで～』（竹書房）の著者である田房さんをお招きしてのZoomによるオンライン講座は、田房さんと参加者が協働でつくるお話会という形ですめられました。

「怒っている自分の事情を自分にきいてみることで、パニックにならずにすむようになった」など、参加者とのやりとりを通して語られる様々なお話は、とても心に響くものでした。



私も以前は余計なことは言わず、時を待っていました。が、のじまなみさんの講演を聞き、今では、「愛し合っているんだよ」と答えています。その後がまだ膨らまないもので、いつ質問されても答えられるようにしたいです。すし、どこまで踏み込んでわかる言葉で伝えられるかが課題です。

様々な学びから感じたこと

どの回にもそれぞれに学びがありましたが、共通することは、学び合いとコミュニケーションの大切さだと思います。

今、時代の流れはさらに早く、インターネット等での性被害や事件があとを絶たない状況になっています。親として、大人として、子供たちを守っていくためにアンテナを立て、学ぶことがかなり必要ではないかと感じました。

また、低年齢の頃から子供のなぜに寄り添い、語り合うことで親子の信頼関係を構築し、話せる環境を作ること、性被害を防げたり、発見できるのではないかと思います。家族間のコミュニケーションから相手へのコミュニケーションと輪を広げること、対等な関係や思いやりのある行動ができるようになるのではないのでしょうか。

たいとうのキラッとさん紹介

ボランティアガイドは私の生きがい

堀越 直子 さん

台東区観光ボランティアの会 代表



浅草、上野、谷中…台東区の数ある観光スポットをめぐり、史跡や文化を紹介する「台東区観光ボランティアの会」。区が行った講座をきっかけに設立された会には、現在シニア世代の80名近いガイドの方たちが登録されています。台東区内の歴史や史跡・旧跡の研修後、会員それぞれがコース案内に工夫を凝らしているそうで、代表を務める堀越さんも、毎回入念な準備を欠かしません。

「ガイドは私の生きがい。またお願いしますと言われるとうれしい」と語る堀越さん。ガイドするにあたっては、資料の収集・作成はもとより、案内する相手の年齢や地元を意識して、子供にもわかりやすい説明方法を取り入れたり、郷土にゆかりある史跡を紹介したときには、とても喜ばれたそうです。さらに、何度も経験しているコースであっても、ルートの確認のために必ず下見に行くとのこと、「次へ向かって工夫するのは、とても楽しい」という言葉通り、ガイド歴12年目となる今も、毎回内容を反省し、新たな工夫と改善を心がけています。

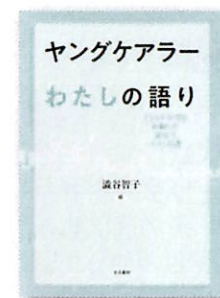
新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、堀越さんが今後に期待するのは、台東区の子供たちに地元のことを知ってもらいたいということ。「勉強やインターネットなどもあるが、実際に見て、自分が暮らす地域に誇りを持ってほしい」というお話やガイドに関する様々なエピソードを伺い、改めて台東区の魅力に気付かせていただきました。

「はばたき21」情報コーナーおすすめ図書案内

ヤングケアラー わたしの語り

— 子どもや若者が経験した家族のケア・介護

澁谷智子編 生活書院



「多くのヤングケアラーは、ケアをマイナスのこととしてみ捉えてはいない。元ケアラーの人たちにとって、ケアの経験はどのようなものであったのかを、当事者自らが思いとともに振り返る。」

子どもと性の話、はじめませんか？

からだ・性・防犯・ネットリテラシーの「伝え方」

宮原由紀著 CCCメディアハウス



子供の成長に合わせた疑問や悩み、それに対する具体的な伝え方など、それぞれの家庭に合う性教育のヒントを紹介する。親子で読みたい性教育絵本や困ったときのホットライン等の情報も掲載。

わたしは黙らない ～性暴力をなくす30の視点

合同出版編集部編 合同出版



#MeToo.未成年者の性被害、被害者バッシング…。性暴力について声を上げ続け、問題を明らかにしてきた34名が、様々な性暴力に関する現状や課題、性暴力のない社会への展望などを綴る。



編集後記

* ヤングケアラーについて正しく理解することから、社会全体でケアラーを支える第一歩が始まるのではないかと思います。今号の表紙イラストを描いてくださったアトリエよこた（男女平等推進団体）のよこたしょうこさんに、心より感謝申し上げます。（I）

* 柳亭こみち師匠の「落語 & 講演」動画配信の撮影現場にうかがい、そのレポートを書きました。こみち師匠のファンとして、また台東区民のひとりとして、たいへんうれしく貴重な体験でした。情報誌編集委員 梶原 雄

* 「どうする？ 家庭での性教育」が走り切りました。連載にお力を頂いた先生方に厚く御礼を申し上げます。貴重な機会、体験をありがとうございました。情報誌編集委員 鈴木 渚

編集・発行：台東区立男女平等推進プラザ「はばたき21」

場 所：台東区西浅草 3-25-16
（台東区生涯学習センター 4 階）

電 話：03-5246-5816

※日曜・休館日以外の午前9時～午後5時

開 館 時 間：午前9時～午後9時

※新型コロナウイルス感染症の感染状況により、開館時間は変更になる場合があります。

休 館 日：第1・第3・第5月曜日

（祝日にあたる場合はその翌平日）

年末年始（12月29日～1月3日）

はばたき21

検索

再生紙を使用しています。

